

平成30年度 自己評価結果公表シート

茨木みのり幼稚園

1. 教育理念

- ・人と人がかかわって豊かな遊びが発展していく環境を作る。
- ・子供の主体性や感性、知性そして人間性を育む教育の実践

2. 教育目標

ひとりひとりの個性を大切にしながら、明るく生き生きとした子どもの育成に努めます。

- ・基本的な生活習慣、態度を育て健康で丈夫な身体をつくります。
- ・自分で考えて行動できる力を養います。
- ・人との関わりの中で社会性、協調性を養います。
- ・さまざまな体験を通して豊かな感性、創造性を育てます。

3. 教育方針

- ・子どもにとって良い環境を整え、明るく伸び伸びとした集団生活を営ませます。
- ・ひとりひとりの子どもの発達段階に応じた保育を行います。
- ・様々な人や物も出来事と出会い、興味や関心を大切に、意欲や思いやりのある子どもを育てます。

4. 本年度、重点的に取り組む目標や計画

- ・新しく作成した教育課程に基づいて、毎日の保育を展開する。
- ・職員間で教育課程の内容を確認し、改善に取り組む。
- ・子どもの実態に合わせた行事の検討をする。
- ・保育の質を高める為に園内研修を継続する。

5. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
新しく作成した教育課程に基づいて毎日の保育に取り組む。	<ul style="list-style-type: none">・教育課程と新教育要領の「幼児期の終わるまでに育てほしい10の姿」を意識して指導案を立てる。・指導案に基づいて保育に取り組み、各自振り返る。
教育課程の内容の確認	<ul style="list-style-type: none">・年齢別で毎月の教育課程の読み合わせをする。・教育課程に基づいて、日々保育に取り組む中で微調整する。
行事の見直しを図る	<ul style="list-style-type: none">・1年間の行事を整理し、それぞれのねらいを明確にする。・子どもの実態に合わせた行事の取り組みになっているか、各学年で話し合い、更に次につながる取り組みを全職員で検討する。・三大行事に関しては、保護者にアンケート調査を行い保護者の思いを把握する。

研 修 ・ 研 究 の 充 実 を 図 る	園内研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験の浅い先生を中心に月1回のペースで研究保育を行う。保育を実際に見る人、ビデオを見る人に分かれる。その後の反省会では意見を可視化する為にマインドマップを用いたり、出た内容を関連する項目でまとめたりしながら、整理して話が進められるようにした。 ・ 全員が意見を持って臨めるよう「post it」も使用する。 ・ 夏に新任対象に園内研修を行う。園の歴史、実践的な手遊び、遊びの取り組み、絵画などについて学び、新任の悩みや思いを聞き合う場を持つ。 ・ 1年間の歌のまとめを表にし、他にうたえる歌を出し合う。みんなで実際に歌をうたってみる。 ・ 保育技術、わらべうた、子どもの主体性を育てるための遊びの取り組みなども行う。
	外部研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの立場で、経験年数に応じた研修に積極的に参加する。(園長研修、主任研修、10年研修、新任研修) ・ 特別支援コーディネーター研修、子育て相談員の認定講座に参加し、支援の必要な子どもや保護者対応についての知識を得る。

6. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領の内容を把握し、職員で話し合うことができた。今後も個々に努力し理解を深める必要がある。 ・ 「幼児期の終わるまでに育てほしい10の姿」に対する意識の持ち方に個人差がある。誰もが目に触れる職員室に表示することで理解が深められるのではないか。 ・ 教育課程の微調整ができた。今後はそれに沿って保育を実践していく。 ・ 毎年当たり前として行っていた1年の行事のねらい、取り組み方法など改めて全職員が検討できたのは良かった。 ・ 検討した1年の行事を今後は、より子ども主体となる取り組み方法を実践していく。 ・ 研究保育の反省会では、少人数ではなくみんなで話し合うことで共通認識ができた。可視化したことで内容が整理され理解しやすくなった。実際に保育を行った保育者にとっては振り返りの材料として有効である。他の保育者も自分の保育と関連付けて、実際の保育に活かしていけるよう今後も努力していく。 ・ 日々の保育に活かせる、手遊び、わらべうた研修は即実践に生かしてよかった。他の遊びについても、研修会を持ち、技術・テクニックを増やしていく。 ・ 外部研修では充実した研修会に参加できたので今後につなげていく。

7. 今後取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 組 方 法
幼児期の終わりまでに 育てほしい 10の姿についての学び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10の姿についての意識を深める ・ 職員室へ表示し、常に意識できるようにする。 ・ 遊びの取り組みの記録を継続し、各クラスでの遊びを見合ったり意見交換をする。 ・ 子どもの主体性を育む環境構成をし遊びの展開をしていく。 ・ 毎日の保育に即実践できる技術を身につける。(歌、手あそび、体操、集団あそびの研修。) ・ 園内研修に取り入れる。

8. 学校関係者評価委員会の意見

- ・本園の教育理念の人と人との関わることを常に意識し、子どもたちがどのようにしながら人や物に関われるかを考えることが大切である。
- ・人と人との関わりの中から社会性・協調性が芽生え、情が育つ。挨拶・感謝の気持ちを持つように。
- ・1年間の行事の見直しが出来たのは良かった。今後はより子どもの主体性が表に出てくるような保育展開をしていけると良い。
- ・行事内容を改善した折には保護者に説明する必要があるのではないか。
- ・子どもたち同士が話し合う機会を多く持ち、子ども主導の活動が進められるように保育者は見守っていけるように。
- ・幼児期にボール投げや体を使っての遊びを十分にできると良い。
- ・年に3回出している「絵本の紹介」は良い。絵本から色々なことが学べ、読解力が育つ。今後も読み聞かせを続けていくと良い。

9. 財務状況

公認会計士監査により、適正な運営がされていると認められている。